

しんりんかんだより

‘22 第7号 (vol. 67)

年主題

「つながって」～今、わたしを生きる～

月主題 3F/2F

ひろがる/みんなちがってみんないい

2022年10月3日発行



「実りの秋」

「A君 きたあー」「おはよう～」「ねえ～今日I君来る?」「来ると思うよ～」
「やったあーきた来た!!」友だちが朝の仕度をするのも待ちきれずに、追いかけてこが
まります。そして何をしてもなくじゃれあっています。「お部屋は走らないで、座って遊
ぼうか・・・」と声をかけると、I君、A君、k君の3人がテーブルの隅に集まって、何や
らひそひそと相談しています。「いいね～それやろう!」いったい何をすることに決まった
のかと見ていると、新聞紙を丸めだしました。そして新聞紙で作った剣と盾を身に着けて、
戦いごっこは、更にパワーアップしていきました。9月のお泊まり会を共に乗り越えた事で
星組の子どもたちの結束は一段と深まっています。「夜の探検で花火さあ、あの上にあった
よね。」「真っ暗で怖かったんだよ・・・」と今も思い出しては話が弾んでいます。親もとを
離れて初めて友だちと泊まった体験を共有して、怖かったけど、僕たち私たちは、みんな
力を合わせれば何でもできる!!と自信を持って胸を張っています。

年少のE君は大好きなH君と遊びたくて、「ねえ一緒に〇〇しよう～」と誘います。好き
な車を並べて遊び込んでいたH君は「やだっ今これやってるから!」ときっぱり。

「なんでー もう遊びたいのに・・・もうやだーっ」と大声で叫び泣き出すE君。でも・・・
暫く泣くと「もう・・・待ってるから・・・一緒に遊ぼうよ。」自分から気持ちを切り替えて
伝えていました。長きに渡り力いっぱい自分の気持ちを表しながら、ようやく少し相手にも
気持ちがあることに気が付き始めたE君です。

みんなちがってみんないい、違いを認め合って生きることは大人でも難しいものです。
いえ大人だから難しいのかもしれませんが。自分の気持ちを素直に表現しぶつけ合い、受け入
れていく子どもたちの姿から、互いの違いを超えて共に生きるヒントが見えてくる気がし
ます。

(主任 鹿糠 正美)